



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)新静岡グランドホテル建築工事	BEE	2	BEEランク	A	★★★★

重点項目への取組み度		得点※/満点	取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.8	/5		ふつう	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.4	/5		ふつう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.6	/5		ふつう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.0	/5		ふつう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	3.8
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①窓Sc=0.431、U=2.73、外壁U=1.00、屋根U=0.58、外床U=2.67 ④外壁材・石葺タイル30年以上(40年) ④内装材・共)床:RC、壁:PB、天井:PB、共に20年以上 ④床:フローリング、壁:PB、天井:PB、共に20年以上 ④給水管:VLP・PEP(B)、汚水排水管・雑排水管:VP(B)、冷却水・冷温水管:SGP(E・D)、主要な用途上位3種の、2種以上にC以上を採用 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑨BEIm=0.67 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪自動水栓に加えて節水便器も採用 ⑪井水を雑用として利用 ⑫断熱材・床下断熱材、木材・プラスチック再生複合・デッキ材、ビニル系床材・床仕上げ材 ⑫OAフロア採用、軽量鉄骨下地により躯体と仕上げ材が容易に分別可能 ⑬ノンフロン断熱材を採用 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑭ライフサイクルCO2排出率を削減 	<ul style="list-style-type: none"> Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制 LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒 LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善 		
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	3.4
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑰節水型器具を設置器具数の過半以上に採用、可能な限り配管の系統を区分し災害時使用不能部分を低減 井水を雑用として利用、受水槽に給水栓を設置 ⑰①メタルケーブル、光ケーブル、携帯電話網などにより通信手段を多様化、精密機器の地下空間への設置を避けている、ケーブルテレビなどにより災害情報が入手可能、無停電電源装置を設置 	<ul style="list-style-type: none"> Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備 		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点	3.6
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑲壁長さ比率0.1以上0.3未満 ■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮) 	<ul style="list-style-type: none"> Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ Q-3 3 3.1 ⑲ 地域性への配慮、快適性の向上 		
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	3.0
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑲生物環境の保全と創出/⑳まちなみ・景観への配慮/㉑敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑲目隠壁設置等により周囲から設備機器が見えない様に配慮、植栽により良好な景観を形成、視点場からの良好な景観を確保 ■敷地外環境対策 (⑲持続可能な森林から産出された木材/⑲温熱環境悪化の改善) 	<ul style="list-style-type: none"> Q-3 1 ⑲ 生物環境の保全と創出 2 ⑲ まちなみ景観への配慮 3 3.2 ⑲ 敷地内温熱環境の向上 LR-2 2 2.5 ⑲ 持続可能な森林から産出された木材 LR-3 2 2.2 ⑲ 温熱環境悪化の改善 		

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新磐田グランドホテル建築工	階数	地上5F
建設地	静岡県磐田市岩井字海道原2241-1	構造	RC造
用途地域	準工業地域、法22条区域	平均居住人員	830 人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年4月 予定	評価の実施日	2022年12月8日
敷地面積	11,981 m ²	作成者	竹下一級建築士事務所
建築面積	3,598 m ²	確認日	2022年12月8日
延床面積	10,813 m ²	確認者	竹下一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 2.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 100% (230 kg-CO₂/年・m²)

② 建築物の取組み: 72% (166 kg-CO₂/年・m²)

③ 上記+②以外の: 72% (166 kg-CO₂/年・m²)

④ 上記+: 72% (166 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目目で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.2

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
これはCASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価結果です。 周辺の豊かな自然環境に調和する建築を目指し、ガーデンだけでなく建物にも緑地を計画している。	LR2: 井水を便器洗浄水に使用し、水資源削減に配慮している。	
Q1 室内環境 昼光率を高めに設定し、光・視環境に配慮している。F☆☆☆☆建材を全面的に採用するなど空気質環境にも十分配慮している。	Q2 サービス性能 壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。補修必要間隔の長い壁材・内装材・配管材を採用するなど建物の耐用性・信頼性に配慮している。	Q3 室外環境 (敷地内) 緑地を設けることにより良好な景観を形成している。防犯カメラの設置など防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー 適切な機械設備、LED照明を使用するなど、省エネ化を積極的に図っている。	LR2 資源・マテリアル 自動水栓に加えて節水便器も採用している。ノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避している。また、OAフロアを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率を72%とするなど地球温暖化への配慮をしている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される